

部局名	産業活力部	所属名	農政課	所属長名	山本 良一	電 話	483-1151 内線3561
-----	-------	-----	-----	------	-------	-----	-----------------

1. 事務事業の位置付け・概要（P L A N）

コード	3804		事務事業名称	環境保全型農業推進対策事業					短縮コード	経常	3803	臨時	3804
予算区分	会計	01	一般会計	款	06	農林水産業費	項	01	農業費	目	04	園芸農産業費	
区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務 ☐ その他			根拠法令等		八千代市園芸用廃プラスチック処理対策推進事業補助金交付要綱							
事業概要（事務事業を開始したきっかけを含めて記入）													
園芸用廃プラスチック処理対策推進事業により，園芸農家から排出する園芸用廃プラスチック類について，適正処理による農村環境の保全と生産農家の健全な発展を図る。													
事務事業を取り巻く状況の変化 又、今後の変化の推測				総合計画の施策体系		5本の柱（章）	05	産業活力都市をめざして					
農村環境保全という観点から今後益々農家要望が増大する。						大項目（節）	01	農業					
						中 項 目	01	農業					
						小項目（施策）	05	環境にやさしい農業の推進					
						細 項 目	02	環境保全型農業技術の導入と実用化					
03	農業用廃棄物の適正処理とリサイクル												
				実 施 計 画 の 計 画 事 業									
計画事業の位置付けの有無			☐	計 画 事 業 期 間		～			計 画 事 業 費		千円		

2. 事務事業の目的・指標・実績（D O）

対象 （誰を何を対象にしているのか）	農家(野菜・果樹・施設園芸)，園芸用廃プラスチック処理対策推進事業(八千代市農業用廃プラスチック対策協議会)，							
手段 （具体的な事務事業のやり方、手順、詳細）	※平成21年度に実際に行ったこと： 園芸用廃プラスチック処理対策推進事業により、園芸農家から排出する園芸用廃プラスチック類の適正処理による農村環境の保全と生産農家の健全な発展を図る事業に対して補助を行った。							
	※平成22年度に計画していること： 園芸用廃プラスチック処理対策推進事業により、園芸農家から排出する園芸用廃プラスチック類の適正処理による農村環境の保全と生産農家の健全な発展を図る事業に対して補助を行う。							
意図 （何を狙っているのか）	・農村環境の保全							
ねらい（上位施策の意図）	入力対象外							
区 分				単位	2 0 年度	2 1 年度		2 2 年度
					実績	計画	実績	計画
対象指標	指標 1	農家	戸数	941	941	941	941	
	指標 2							
	指標 3							
活動指標	指標 1	園芸用廃プラチック類回収量	トン	15	15	12	15	
	指標 2							
	指標 3							
成果指標	指標 1	園芸用廃プラスチックリサイクル工場に搬入した農家戸数	戸	70	70	70	70	
	指標 2							
	指標 3							
上位成果指標	指標 1							
	指標 2							
	指標 3							

コード	3804	事務事業名称	環境保全型農業推進対策事業				所属名	農政課
今後の方向性	⑥この事務事業の今後の方向性を選択し、その詳細について右欄に記入する。	☐ 改革・改善して継続			環境保全型農業を推進するために、農業情勢の動向を注視し、適宜事務の見直しをする。			
		☐ 手法プロセスの改革・改善						
		☐ 事業規模の拡大・縮小						
		☐ 統合・役割見直し						
	☐ その他							
☐ 廃止・休止								
☐ 事業完了								
☒ 現状のまま継続								
	⑦この事務事業の今後の経費・成果の方向性について選択し、右欄に理由を記載する。			経 費			現状の経費で成果は出ている。	
				削 減	不 変	増 加		
		成 果	向 上	☐	☐	☐		
			不 変	☐	☒	☐		
			低 下	☐	☐	☐		

この事務事業に対する市民や議会の意見（担当者が把握している意見） ※内部サービス業務の場合は、住民ではなく、サービス利用者、関連部門の意見や実態など									
都市化に伴い、園芸用廃プラスチックの野焼き等の苦情があるため、農村環境の保全に取り組む、この事業は継続すべきである。									

所属長コメント	安全で安心な農産物の生産及び農村環境の保全に取り組むことは、今後さらに重要度が増すことから、今後も事業を進めていく。								
評価調整委員会評価	☐ 改革改善して継続			担当課の評価のとおり、現状のまま継続とする。					
	☐ 手法プロセスの改革・改善								
	☐ 事業規模の拡大・縮小								
	☐ 統合・役割見直し								
	☐ その他								
☐ 廃止・休止									
☐ 事業完了									
☒ 現状のまま継続									